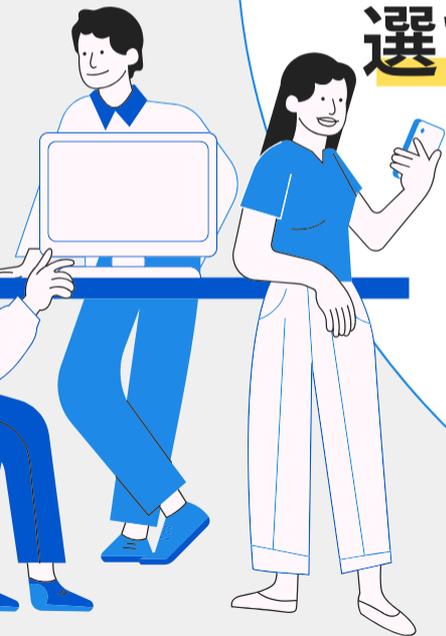


初心者でもわかる

システム開発の種類と 選び方のコツを分かりやすく紹介

目的別の特徴と選定ポイントを紹介



こんな悩みありませんか？



業務効率が悪く時間がかかる

手作業での処理に多くの時間を費やし、
本来の業務に集中できない



手作業でミスが多発している

人的ミスによるデータ入力ミスや
情報の取りこぼしが発生している



顧客対応が遅れがち

情報共有の遅れにより
顧客への対応スピードが低下している



データ活用ができていない

蓄積されたデータを分析し
経営判断に活かせていない

目次

1 システム開発が必要な理由

- ✓ ビジネス環境の変化への対応
- ✓ 業務効率化と生産性向上

2 主要なシステム開発の種類

- ✓ Webシステム開発
- ✓ 業務システム開発
- ✓ モバイルアプリ開発

3 開発前の準備事項

- ✓ 目的と要件の明確化
- ✓ 開発手法の検討

4 開発会社選びのポイント

- ✓ 実績と専門分野の確認
- ✓ コミュニケーション力

5 成功する進め方

- ✓ 開発プロセスの理解
- ✓ チームとの連携強化

6 期待できる効果と次のステップ

- ✓ 業務効率の飛躍的向上
- ✓ 顧客満足度の向上
- ✓ 長期的な競争力強化

システム開発が必要な理由



ビジネス環境の急速な変化

デジタル化が進む現代では、紙やExcel管理からシステム化によるデータ一元管理が不可欠です



業務効率化と生産性向上

手作業の自動化により作業時間短縮とミス削減を実現し、重要業務に集中できる環境を構築します



顧客サービスの向上

24時間対応のオンラインシステムなど、顧客の利便性を高めるサービスを提供できます



データ活用による意思決定強化

蓄積データの分析により、事実に基づいた戦略的な判断が可能になります



Webシステム開発

i 特徴

ブラウザさえあればどのデバイスからもアクセス可能。
専用ソフトのインストールが不要で情報共有がリアルタイム。

+ メリット

多くのユーザーが同時アクセス可能。バージョンアップや
保守管理が容易で、管理コストを抑えられる。

- デメリット

常にインターネット経由で動作するため、セキュリティ対策が
重要。高度なシステムは開発コストや時間がかかる。

 ECサイト

 顧客管理(CRM)

 予約システム



業務システム開発

i 特徴

企業の業務内容や規模に合わせて完全カスタマイズ。
オーダーメイドで作られ、要件定義が非常に重要。

+ メリット

業務フローにぴったり合わせた柔軟な設計が可能。
自社にフィットした仕組みで業務効率化の効果が高い。

- デメリット

フルスクラッチの場合、開発期間が長期化し初期コストも高額に。メンテナンス費用や機能追加コストも継続的に発生。

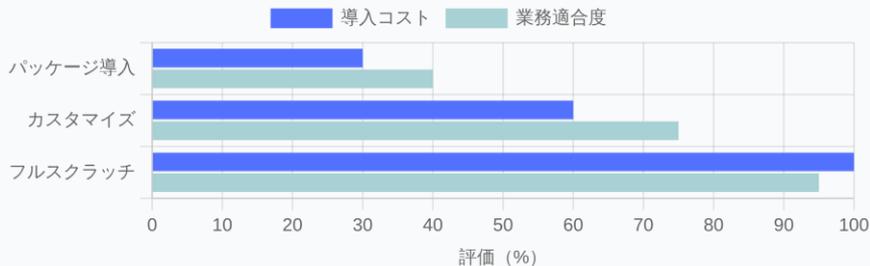
生産管理

物流管理

顧客情報管理



開発方式による比較



モバイルアプリ開発

スマートフォンやタブレット向けのアプリケーション開発には、目的や予算に応じて選べる3つの主要な開発手法があります。

📱 ネイティブアプリ

iOS/Android向けに専用言語で開発するアプリ

- ✓ 端末機能をフル活用
- ✓ 高速・高性能な動作
- ✗ OS毎に別開発が必要
- ✗ 開発コスト・期間が長い

🌐 Webアプリ

ブラウザ上で動作するアプリ

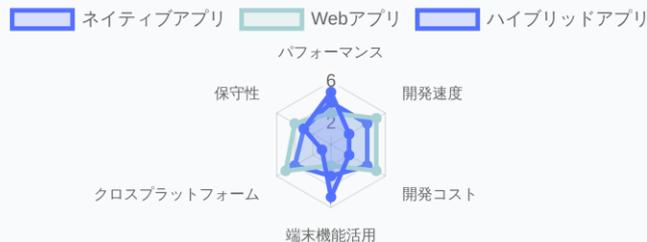
- ✓ OSに依存しない
- ✓ 更新が即時反映
- ✗ 端末機能の活用に制限
- ✗ オフライン動作に制限

🔗 ハイブリッドアプリ

Web技術で開発し一部をネイティブ化

- ✓ 一度の開発で複数OS対応
- ✓ 一部の端末機能も利用可能
- ✓ コストとパフォーマンスのバランス
- ✗ 完全なネイティブ性能には劣る

アプリ開発手法の比較



💡 選択のポイント

開発前の準備事項

1 目的と要件を明確にする

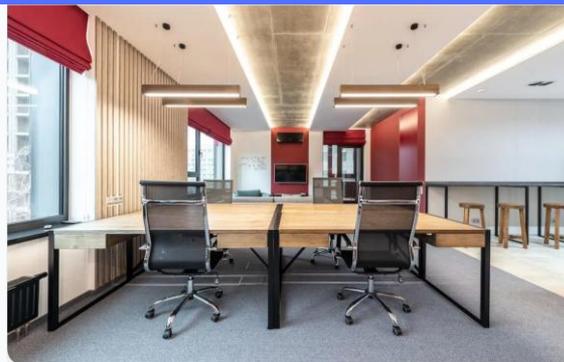
「何のためにシステムを導入するのか」をはっきりさせ、自社のビジネス課題を整理します。必須機能と優先順位を決め、無駄な開発を防ぎます。

2 開発手法を検討する

内製か外注か、パッケージ導入かフルスクラッチかなど、自社の予算・スケジュール・要件に照らして最適な開発手法を選びます。

3 開発会社を選ぶ

実績と専門分野、コミュニケーションのとりやすさ、契約内容とコストの透明性などを基準に、信頼できる開発パートナーを選定します。



📋 準備チェックリスト

- 現状の課題を書き出す
- 目標とKPIを設定する
- 予算と期間を決める
- 社内の協力体制を整える
- 複数社から見積もりを取る
- 契約内容を精査する

システム開発の工程別工数



開発会社選びのポイント



実績と専門分野の確認

過去の開発実績や得意分野を確認し、自社が望む分野の経験が豊富な会社を選びましょう。類似プロジェクトの実績があれば、ニーズを理解してもらいやすくなります。



コミュニケーション力

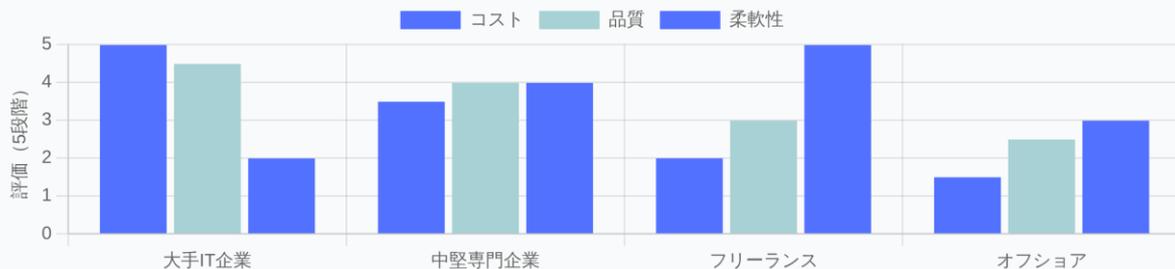
対応の速さや説明のわかりやすさをチェックしましょう。仕様変更や要望調整がつきものなので、柔軟に対応してくれる会社が理想的です。



契約内容とコストの透明性

見積もりが詳細で明確か確認します。契約範囲内でどこまで対応してもらえるのか、追加費用が発生する条件は何かを事前に把握しましょう。

開発会社タイプ別比較



💡 選定のコツ

- ✓ 複数社から提案を取る
- ✓ 実際の担当者とお会う
- ✓ 過去の顧客の評判を調べる
- ✓ 小規模な案件から始める
- ✓ 保守・運用体制も確認する

成功する進め方

要件定義・設計

システムの目的や必要な機能を具体化し、画面レイアウトや構造を設計。発注者の業務知識や要望をしっかりと伝えることが重要。

開発・テスト

プログラミングによる実装と不具合検証。発注者もテスト結果のレビューや機能確認に関与し、仕様通りか一緒にチェック。

運用・保守

完成したシステムを実際の業務に組み込み、運用中の課題対処や機能改善を継続。サポート体制を事前に取り決めておく。

成功のコツ

- ✓ 定期的な進捗確認の場を設け、現状や課題を共有する
- ✓ フィードバックは迅速に行い、開発チームの作業を止めない
- ✓ コミュニケーションロスを減らし、認識違いによる手戻りを防ぐ
- ✓ 困ったときにすぐ相談し合える信頼関係を構築しておく

発注者の役割

明確なゴール設定

システム導入で何を達成したいのか、具体的な成果指標を示す

積極的なコミュニケーション

「作ってもらって放置」ではなく、二人三脚で進める意識を持つ

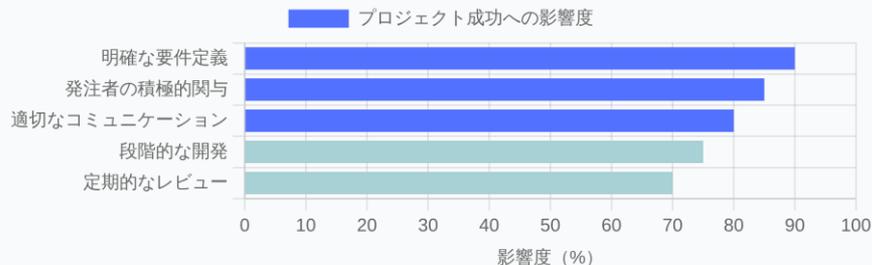
適切な意思決定

仕様変更や優先順位の判断を迅速に行い、開発の遅延を防ぐ

社内調整

関係部署との調整や社内の協力体制を整える

システム開発成功の要因



期待できる効果



業務効率の飛躍的向上

手作業の自動化により人的ミスが減少し、処理スピードが向上。従業員はルーチンワークから解放され、より創造的な業務や対人業務に時間を充てられるようになります。



顧客満足度の向上

顧客情報を一元管理し活用できるシステムにより、対応が迅速かつ的確に。過去の履歴をすぐ参照でき、個々の顧客に合ったサービス提供が可能になります。



長期的な競争力強化

将来を見据えた最適なシステム選択により、短期的な効率化だけでなく将来的なビジネス拡大の基盤を構築。拡張性のあるシステムで競合優位性を確保できます。

システム導入後の効果推移



成功の鍵

- ✓ 現状の課題だけでなく将来のビジョンも踏まえたシステム選択
- ✓ ユーザー視点を重視した使いやすいインターフェース設計
- ✓ 段階的な導入と継続的な改善プロセスの確立
- ✓ データ活用を前提とした設計と分析基盤の整備
- ✓ 社内の理解と協力を得るための丁寧な説明と

次のステップ

1 課題の洗い出し

まず自社の課題を洗い出し、解決したい優先事項を決めましょう。「何を実現したいのか」のゴール設定を明確にすることが重要です。

2 情報収集と比較検討

複数の開発手法や会社の情報を集め、自社に最適な選択肢を比較検討します。専門家の意見も参考にしましょう。

3 開発パートナーへの相談

信頼できる開発パートナーに相談し、プロの視点での提案や見積もりを受けてみましょう。小規模な案件から始めるのもおすすめです。

※数値・固有名詞はダミーです。要確認

お問い合わせ

株式会社ソフィエイト

 Sophiate Inc.

 contact@sophiate.co.jp

 〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町1番12号

 <https://sophiate.co.jp/>

 代表取締役：川島碩介

メッセージ

ご相談・お見積りは無料です。お気軽にご連絡ください。

 メールでお問い合わせ

 ウェブサイトを見る